

# 『炭酸ガス発生装置＋電照栽培と精度の高い 産地情報提供による信頼される産地づくり』

＜ イチゴの品質向上をめざして ＞

【産地名 J A常陸小川イチゴ部会（茨城県）】



## ◎産地データ（H15年）

対象品目名	イチゴ
産地の名称	J A常陸小川イチゴ部会
作付面積	5.6ha
主要作付品種	とちおとめ
作付農家戸数	25戸
生産量	196t/年間
出荷（販売）量	179t/年間
販売額	164百万円/年間
出荷（販売）先	京浜市場

## 1. 産地の概要と特徴及び課題

位置・立地・気象条件など

J A常陸小川イチゴ部会は平成元年に部会員 30 名で発足し、平成 5 年茨城県の銘柄推進産地に指定され小川町の重点振興作物として歩んできました。当時は「女峰」品種の導入により産地の評価も向上し、その後、隣町の J A美野里町イチゴ部会と協力して広域イチゴ産地を設立いたしました。平成 12 年には、部会員全員が茨城県のエコファーマーの認定を受け、土づくり、減化学肥料、減農薬によるイチゴの生産に取り組んでいます。

平成 13 年 6 月に小川・美野里両町で茨城県の広域イチゴ銘柄指定産地に指定されました。品種も「女峰」から「とちおとめ」に変わり完熟堆肥による土づくりを積極的に実施し、良品のいちご生産を常に心がけ、信頼される産地の確立のため部会員一同励んでいます。

現在、JA 常陸小川の課題として、出荷後半の高温時期における品質低下と収量が栃木県と比べ低いので栽培の条件整備による反収アップが挙げられます。

### ◇対象品目の作型（生育ステージ）

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1~5	
作業	● 親株 定植				▲ 採苗 準備	▲ 採苗 仮植	×	×	×	☆ 保温 開始	☆ 収穫 開始	

## 2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	イチゴ	該 町	小川町
策定年月	平成 15 年 2 月	当 村	
策定主体名	常陸小川農業協同組合	市 名	

(1) 計画の全体概要（要旨）

部会員の栽培品種を市場要望の高い「とちおとめ」に 100%転換し、品種特性に合わせた栽培条件を整備するため、

- ①炭酸ガス発生装置・電照栽培を現在の 1.5 h a から 6 h a を目標に導入し、単収を現在の 3.5 t /10 a から 3.9 t /10 a に引き上げる。
- ②夜冷育苗法導入等による栽培方法の検討により栽培期間の延長を図る。
- ③品質の向上を図る。
- ④部会員全員によるトレサビリティ実施と残留農薬検査により安心できる商品提供。
- ⑤消費者に信頼される産地育成。
- ⑥精度の高い産地情報の提供により市場評価向上を目指しています。

(2) 具体的な目標

高付加価値化タイプ

- ①とちおとめ栽培面積 1.5 h a →6 h a
- ②炭酸ガス発生装置の導入面積 0 h a →6 h a
- ③反収の増加 3.5 h a /10 a →3.9 h a /10 a

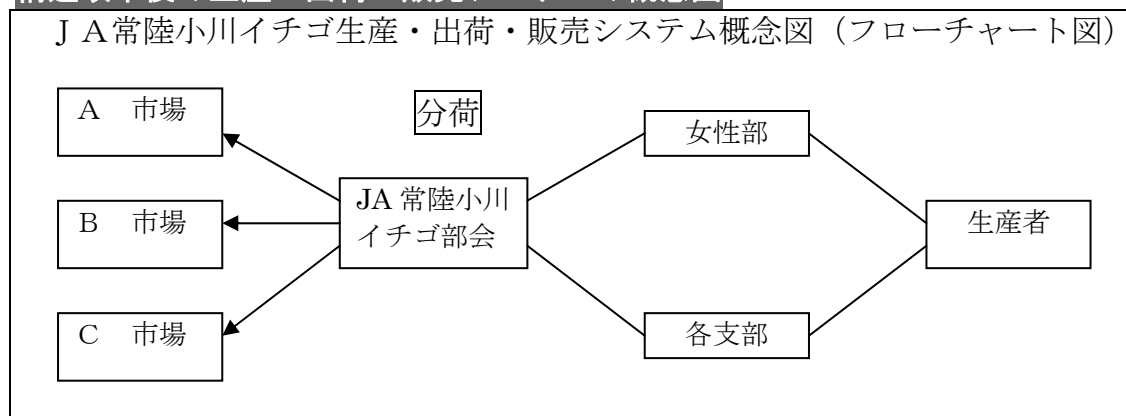
3. 産地改革計画の実行状況とその成果

	具体的な実施内容	
	15年度	16年度計画
①生産面 (高品質・高収量性イチゴの生産)	①炭酸ガス発生装置・電照装置の導入による品質収量向上への取り組み ②栽培講習会の実施 ③先進地研修実施	①炭酸ガス発生装置・電照装置の導入による品質収量向上 ②栽培講習会の実施 ③先進地研修
②流通面	①PB販売に向けた出荷規格・形態の検討 ②消費宣伝の実施（量販店での販促活動の実施・4回） ③消費拡大パンフレット作成	①出荷規格・形態の検討 ②消費宣伝の実施 ③消費拡大パンフレット作成 ④市場調査販売戦略の検討と実施

成果

- ①品種は「女峰」から「とちおとめ」に 100%転換がなされ、品質面については、炭酸ガス発生装置を利用し、その装置を部会員が導入することによって部会全体の品質向上を図りました。
- ②炭酸ガスを施用することにより慣行栽培のものより日持ちが良くなり光沢が良好になり市場からのクレームがほとんどなくなりました。
- ③出荷体制も検討を繰り返し店頭販売時の痛みを防止するために予冷を充分行い、3日目販売を実施しています。

### 構造改革後の生産・出荷・販売システムの概念図



### ◇産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

#### I 国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
15	野菜構造改革促進特別対策事業	常陸小川農業協同組合	炭酸ガス発生装置 電照設備	(千円) 9,598	(千円) 4,570

#### 4. 今後の課題とその取組方向

平成14年に産地改革計画を策定し、この計画に沿って平成15年度に国補事業（野菜構造改革促進特別対策事業）を利用し炭酸ガス発生装置、電照装置の導入を図り、品質向上、単収アップのための条件整備を行いました。これらを足がかりとして「儲かるイチゴ栽培」を目指し後継者の育成と新規栽培者の拡大を図っていきます。特に後継者に魅力あるイチゴ栽培をしていただくには、販売面・栽培面でさらなる飛躍してもらう必要があります。それには今後必要になってくる条件を今から準備し、体制を整えておかなければなりません。

##### 具体的な課題と対応策

- ① 早期出荷のための優良苗供給→夜冷装置導入
- ② 3日目販売対応→低温貯蔵庫導入
- ③ 品質保持のためエチレン除去装置導入
- ④ 生産者間の品質格差解消のために→生産技術情報交換を密にする。
- ⑤ 制度の高い産地情報の提供→量販店での売り場の面積確保。

#### ■ 【特記事項】

# 産地改革・取組フォト

<写真 part 1>イチゴパック詰め作業



<写真 part 2>炭酸ガス発生装置



<写真 part 3>電照設備



<写真 part 4>出荷品



## <県・問い合わせ先>

茨城県 県北地方総合事務所 農業課

担当者：保坂 光良

▽住所：茨城県水戸市棚町1-3-1

▽TEL：029-221-3034

## <農協・問い合わせ先>

常陸小川農業協同組合

担当者

▽住所：茨城県東茨城郡小川町小川4番地11

▽TEL：0299-58-4139